

東京都知事 殿

提出者の情報

糸長浩司

対象事業の名称： 築地地区まちづくり事業の環境影響評価書案

環境保全の見地からの意見

意見の対象項目：生物・生態系

1. 本計画では「河川水熱利用施設」等に伴い、夏季の冷房需要期には膨大な空調排熱が温排水として隅田川へ集中的に放流され局所的な高い熱汚染が予想される。3度～5度Cの上昇と予測し、かつ、現在 29.5 度 C と述べ、放流口周辺の水温が 30 度の超過があると予測し、水中の生物、生態系への影響は少ないと楽観視しているが、近年の地球温暖化に伴う海と河川の水温上昇及び潮汐での流速低下による水温上昇の停滞が考慮されていない。これらを考慮した評価を再提出してほしい。
2. 施工後の 70 年間に於ける隅田川の水温の異常上昇、高い水温の常態化が生じた場合の代替措置（ミチゲーション）の具体的な対策について言及してほしい。現段階の計画書では隅田川沿いでの水温上昇対策についての具体的な言及がなく、単に自然と人のふれあい空間が言及されているだけであり、自然環境の人為的改変（水温上昇に伴う河川の生態系環境の改変・異変）に対しての対策が述べられていない。これらの対策をする隅田川沿いの場所と手法についての明確に述べてほしい。
3. 鳥類に関してはヘリコプター・空飛ぶクルマでの影響は評価しているが、肝心の超高層ビルによる鳥類への影響の評価が皆無である。超高層ビルのガラス窓による鏡効果、反射等による猛禽類を含めた鳥類のバードストライクも含めた、鳥類の飛行影響に関する考察及び対策について言及してほしい。具体的な鳥類に言及して対策を述べてほしい。

意見の対象項目：景観

1. 環境影響評価書案の形態率の予測結果、p539 の表 8.12-7 では、選定全 6 箇所のすべての変化率（増加幅）は 10%を超えており、最大は 30.48%と異常な著しい増加を示している。周辺の公共・緑地空間、居住環境、隣接の浜離宮の文化的歴史的に高い貴重な景観価値を破壊するものであり、受忍限度を超える極めて深刻で劣悪な圧迫感と閉塞感をもたらす。現在の超高層による計画案が不適切であることを景観影響の視点からも明確に示している。通常の再開発での形態率変化・増加は 10%未満であろう。これに比較して本再開発計画の異常性が際立つ。東京都の公有地での再開発が貴重な空への都民のアクセス権を大幅に削減することは許されない。現状の計画案における建物の高さ・ボリューム・配置・形状を大幅に見直すべきである。この点について回答してほしい。
2. 測点が 6 点と少なすぎる。測点を増加させ、形態率の変化についての詳細な解析を行い、その結果を再評価してほしい。
3. 形態率の増加が 10%未満となるように、建物配置、高さ等の再検討をすべきである。

以上